

携帯持ち込み、ついに実現



速報版

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

227号
携帯認可特別号

携帯持ち込み始動

1面 生徒に聞く認可の心境
生徒会長の思い

2面 これまでの取り組みを振り返る

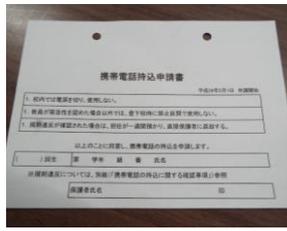
持ち込み申請書配られる

5月に入り、いよいよ持ち込みの申請書が配られ、実際に携帯を持ち込むことが出来るようになった。編集部では、持ち込み案の承認発表直後に、生徒に心境を聞いた。

(編集部共同取材)

携帯電話の持ち込みに関する確認事項

1. 小平駅～錦城高校、武蔵小金井駅～錦城高校、東久留米駅～錦城高校の区間では使用禁止
2. 歩きながら、もしくは自転車で走行しながらの使用禁止
3. 校内では電源を切る
4. 携帯電話の持ち込みの申請書を提出する



上記の禁止事項が守られない場合は、
1週間学校で預かった後に保護者に返却

認可に関するQ&A!

あなたの疑問に答えます

Q: 休み時間や放課後、使用していいの?
A: 校内での使用は禁止です。電源を切ってください。

Q: 緊急事態ってどんなとき?
A: 事故・事件・災害・大福から連絡します。学校の公衆からの信頼の証拠だとしたら嬉しいですよ」と喜びをあらわにした。

Q: 迎えに来てほしい時など、親と連絡を取りたい場合は使ってもいいですか?
A: 事故やケガ、病気など緊急性が認められるものは教員から連絡します。

Q: 電話を使用してください。
A: 使用禁止区間外であれば、使用は可能ですか。
A: 可能です。ただ、錦城高校の制服を着ている以上、錦城生として見られていることを忘れないでください。

Q: 錦城祭などの行事で使いたいのですが、特例として認められますか。
A: 認められません。



「問題は自分達で解決すべき」と引間くん

引間瑛介くん(2E)は「先輩たちが積み上げてきたことが成功してよかった」と安堵の表情。以前から認可に肯定的だったが、校内で使用してしまうのではないかと危惧する。しかしきちんと自分達で口頭注意を行い、生徒間で対処することが大切だと前向きだった。



「違反者が出て授業が削られるのは嫌です」と間部さん

間部夏音さん(3D)は、先生と生徒との信頼関係によってできたものだと言った。携帯電話を没収される人や盗難も発生する中、どのようにして先生の信頼を得るかが大変だったそう。時代の流れや生徒のスタイルも変わっていくので、「錦城がいい」と思っても

「生徒自身が変わる錦城へ」
今回の携帯持ち込み認可によって「生徒の力で変えられる」ということを形にできた」と成果を話す高橋さん。一方で生徒から「使用が駄目なら持ち込みが許可されても意味がないのでは」という声も上がっており、今後どう生徒たちに説明していくか中央委員会で話し合いを行っている。

北村歩生さん(2C)は「先輩たちは認可のために頑張ってきたが、私たちは認可活動に参加している実感がそれほどないと思う。後輩たちも同じ様に認可についてあまり深く考えないのでは」と今の状況を危惧した。

三住冬弥くん(2H)は「原則的に使用不可なので、今ま

悪くなったたりするのが嫌だ。だが「HR前に電源を切っているかどうかの確認をすればいいのではないかと話した。1年生から代議員として活動している齊藤辰太郎くん(2K)は「活動した成果が出て良かったです」と嬉しそう



これからの過ごし方が大切だと話す高橋さん
「これからの過ごし方が大切だと話す高橋さん」
「これからの過ごし方が大切だと話す高橋さん」
「これからの過ごし方が大切だと話す高橋さん」

携帯認可までの道のりを振り返る

これまでの経緯

2014年度
生徒会選挙時に丸田和成会長が携帯電話の持ち込みを公約に掲げる
2015年度
当時1年生が授業中に携帯を使用していたことが発覚、学年集会が開かれ、試用期間の施行が頓挫した
牧野魁人会長が携帯持ち込み認可活動を再スタートさせる
代議員会で「校内への持ち込みは許可、ただし校内では電源を切り、使用を原則禁止とする」という生徒会案が承認され、代議員会との合同案となる
2016年度
高橋夏音会長が自分の代で携帯持ち込み認可活動に決着をつけると表明
携帯持ち込みの生徒会案について12月の職員会議で「継続審議」と結果が出される
2017年度
携帯電話持ち込み案が承認される

携帯認可始動、しかし…

携帯持ち込み活動は、2代前の生徒会から本格的に始まった。51回生の丸田和成くんは「携帯持ち込み認可」を公約に掲げ、生徒会長になった。以前から携帯に関する活動は行われていたが実現しなかった。定例会では「活動は厳しいと思う」という声が上がると、代議員と会議をし、全校生徒にアンケートを取るなどした。その結果、校長先生との会談に辿り着き、実際に試用期間を設ける方針に至る。しか



携帯持ち込み認可に向けて再始動する生徒会

再始動、そして認可へ
 牧野魁人元会長率いる52代生徒会は、全校生徒にアンケートを取り、代議員会や各クラスでの審議を行なった。申請書を出して携帯を持ち込む「携帯持ち込み認可申請案」について、各クラスの代議員を通じて生徒へ説明し賛否を取った。その後代議員会で生徒会案が承認され、職員会議で議論されるこ

し53回生の1人が授業中に携帯で先生の写真を撮り、その画像をSNSに流出させたことが発覚。学年集会が開かれ、大きな問題となる。中央・代議会同会議で試用期間に関する説明がされる直前のことだった。この事件がきっかけで試用期間の施行は頓挫、中央委員会は持ち込み案を取り下げざるを得ない状況になり、先生と生徒との信頼関係は大きく崩れた。



生徒前で持ち込み認可について語る生徒会長

案が職員会議で認可されたこととが、4月19日の2、3年生徒集会で、生徒会長の高橋夏音さん(3D)と代議員長の高坂美羽さん(3I)から発表された。

強固な信頼関係を目指して
 生徒指導部主任の栗林先生に話を聞くと、職員会議では教員が朝、生徒から携帯を集めてロッカーにしまうという案も出ていたそう。しかし、管理するのはなく自主性を育てていきたいという意見が持ち上がり、持ち込み可、使用禁止というルールとなったという。

歴代生徒会長、認可への思い語る
 携帯持ち込み活動に携わった歴代の生徒会長に現在の心境を伺った。

錦城生に一喝したかった

51回生生徒会長の丸田和成くんは認可について「学校全体が一丸となってできたこと。とにかく感慨深い」と生徒の協力を感謝。しかし「錦城生がいつまでも『みんな持って来ているし、ばれなきゃ問題ない』と思っていることをグサグサと思っていた。堂々と携帯が使える環境にしたかった」と一喝したいところもあったという。「校則違反が問題として挙げられる中、アンケートで『はやくお前らだけで何とかしろよ』みたいな意見が多かった。それらが原因で



2年前の6月30日に、一度認可について学校側と生徒会の会議が行われた。

自分の代では持ち込み許可まではいけなかった」と悔いの残る思いを語る。

最後に「悔いの無い高校生活を、言ってももったいない」と思っていたと思う。それが結果的に最高の高校生活を作り上げていくのだと錦城生たちにメッセージを送った。(藤)

生徒の協力に感謝

52回生生徒会長の牧野魁

栗林先生は生徒に「今まで以上に自分たちを律することができるかが問題。2、3年生は携帯持ち込み認可までの経緯を知っているからこまめに促す必要がある」と話す。「これから新たな問題が発生して先生たちがルールを追加しては意味がない。そこは教師と生徒の信頼関係だね」と力強く語った。

校長先生にもインタビュー

松林校長先生にも今回の携帯持ち込み認可について話をと話し校長先生は、「錦城生だ」という自覚を持って、携帯の使い方のマナーを守ってほしいです」とみんなに呼びかけ

今回の結果は、先生からの信頼があつたことだ。校内での使用などで信頼を失えば、これまでの多くの人の努力は無駄になる。これまで以上にルールやマナーを守る意識を高く持って生活しよう。

錦城新聞では、携帯持ち込み認可活動について164、212、213、214、224号で取り上げてきました。過去記事を読みたい方は錦城高校HPへ!

(鴉)